

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

(株)第三者評価機構 神奈川評価調査室

②施設・事業所情報

名称： GENKIDS新子安保育園	種別：保育所	
代表者氏名：西井直人	定員（利用人数）： 70 名	
所在地：〒221-0021	神奈川県横浜市神奈川区子安通3-371	
TEL：045(440)0130	ホームページ： https://www.jp-holdings.co.jp/amenity-life/index.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日： 2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社JPホールディングス・グループ 株式会社アメニティライフ		
職員数	常勤職員：13名	非常勤職員 4名
専門職 員	（専門職の名称）	
	保育士11名	保育士 3名
	栄養士 2名	保育助手1名
施設・設 備の概 要	（居室数）	
	（設備等）	
	保育室6室・事務室・ 休憩室1室・物品庫1室	職員トイレ3室・屋上・園庭・エントランス

③理念・基本方針

今日という毎日の暮しに「生活の型」を通して喜びと安心感を与えることが、子供たちが“未来”に生きることにつながると考えています。子供たちが最良の今日を生き、そして望ましい未来を作り出さず力を培えるようGENKIDSは保育を通じてサポートします
○温かい保育園を目指します ○保護者とのコミュニケーションを大切にします

④施設・事業所の特徴的な取組

○職員の採用計画
市内にある保育士養成校との連携を高め新規採用者を獲得し、より良い資質を持った職員の育成を心掛けていること
○事業所本部での階級別・自由選択研修の取り組み
職員の質の向上、技術の標準化、職員の人間性を深め、知識と技術の自己研鑽に励むことができる取り組み
○子育て支援
保護者とのコミュニケーションを職員誰もがとり、育児相談にも乗れるような柔軟な対応を心掛けている

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年12月25日（契約日） ～ 令和3年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

○どの子どもの個性も尊重する、温かな支援に取り組んでいます

保育所に通う子どもの2割程が中国、インドなど様々な国籍です。言語でのコミュニケーションが難しいことから保育者が中国語や英語を学習し、保育所の生活で必要となる単語をクラス内に掲示して、母国語で会話がとれるよう図っています。片言でもコミュニケーションがとれるようになった段階で、今後の日本での生活を見通して日本語の意味を伝えています。保護者への説明も翻訳ソフトを傍らに置き、諸所時間を費やすことが増えるデメリットをプラス発想に換え、「異文化について理解を進め、子どもにとっても充実した経験となるような保育を提供する」ことにフォーカスし、「様々な国の挨拶や、食文化に親しむ」「保育参加の形で、中国語で読み聞かせをしてもらう」といったビジョンを挙げており、「現状抱える課題を解決したら、すぐやりたい」と希望に膨らんでいます。

○保護者の就労支援とともに、安心・安全の確保に努めています

保育所では保護者が安心して就労できるよう、最大21時までの預かりとともに体制を整えています。保育園内の安全性を高めるため0歳児室の床暖房やロッカーは耐震対策をし、入口にはカード式セキュリティを採用、カードを持たない人は中に入れないようになっています。また保育所の立地（国道と京浜急行線の線路に挟まれた場所）に配慮し、交通量が多い道での散歩にリスクが伴わないよう散歩マニュアルを作成するほか、子どもたちは近隣企業の社員から交通安全指導を享受してもいます。「お散歩コース」を固定して、「決められた横断歩道のみを渡る」「ガソリンスタンドの前は通らない」「線路は横断しない」などの約束事を保育者が確実に遂行する一方で、子どもはお散歩を通して四季を感じ、虫や花、時には大人にふれることで、ワクワク・ドキドキの感覚を安全に獲得しています。

○保育所は一つの家庭であると考え、多職種で食育を励行しています

全職員が子ども一人ひとりを大切に考え、家庭的な雰囲気子どもが安心して過ごせる環境をつくる一環として、栄養士と保育者とで協力しあい食に力を入れています。年間で立てた「食育年間計画」に基づき、幼児クラス中心に夏野菜の栽培をおこない、お楽しみ会のカレーのトッピングとして収穫を味わう機会を設け、保護者からは苦手な野菜の聞き取り確認をして意見を取り入れ、克服したときは大いに褒めて子どもの自信に実っています。毎日の食事では子どもが楽しいと感じられるよう発達に合わせて自助具を備え、食器は「物の大切さ」意識して欲しいとして陶器を取り入れています。日々の献立では旬の食材を使うほか、近所から「玉ねぎ、抜きにきていいよ」と声をかけてもらえ、普段から裸足で走り回る元気な子どもたちが格別に歓喜した日もあります。

◇改善を求められる点

○運営の基盤となる書面を整える

開設から3年となる保育所なことから今回の第三者評価は初めての受審です。職員の離職・入職や多国籍の保護者への対応等、通常保育が思うようにならない中、運営会社が3年前に変わって以降、書面の取捨選択が進んでいないことで、十分な書面体制にあるとは言えません。本部には充実した書面があるため、入れ替えが進んでいないことは遺憾です。

○記録の書き方の質を標準化させる

現場の保育と記録は必ずしも一致するわけではありませんが、現状は保育者の記録の取

り方、書き方に格差があり、現場に影響していないか心配になる状況です。保護者アンケートの言葉や園長・主任の説明、子どもの関達さからは単なる危惧ともいえますが、保育への着眼点や見通し、観察の力など、先輩から後輩へOJTできる仕組みがつくられることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、当園に関しましては初めての第三者評価とありまして、当園の課題もとてもよく理解でき、反省にもなり、これからの課題ができました。

現在の社会情勢における感染対策の渦中にもあり、通常の保育内容や運営、特に地域とのつながりの面においては、計画は考案しても実行には至らない点も多くございます。運営主体が変わってから様々な取り組みを少しずつ取り入れていくことも直面しているので、今後、職員と課題を共有しつつ、

今を生きる子どもたちや子育て中の保護者様・地域社会にも安心であり安全である環境あることや、信頼される保育園を目指し、職員の意欲を高め、質の向上・育成に励み、保育所としての経験を積みまして、運営本部と協力し福祉事業に従事していこうと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり